

# 水稻の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

URL:[http://www.agri.pref.chiba.lg.jp/nourinsui/08engei/nousan/suitou\\_seiku/](http://www.agri.pref.chiba.lg.jp/nourinsui/08engei/nousan/suitou_seiku/)

第 3 報  
千葉県農林水産部  
平成20年6月26日

## 7月に入って低温の場合は深水管理！

### [生育概況]

#### 幼穂形成期は平年に比べ2～3日遅れ（表1、2を参照）

6月上旬に梅雨入りとなり、気温は平年並みに推移し、日照時間は平年よりも多くなりました。

幼穂形成期は平年に比べ2～3日遅く、4月20日植え「ふさおとめ」は6月19日から、「ふさこがね」は6月21日からとなりました。なお、「コシヒカリ」は、6月28日頃からと予想されます。

生育は、草丈が平年並みで、葉色のさめが遅れ、後から発生した分けつが目立つことから、茎数がやや多いものの、無効分けつの割合が大きくなることが見込まれます。

突発的な低温に注意が必要な時期です。気象情報には十分注意し、必要な対策が遅れないようにしましょう！

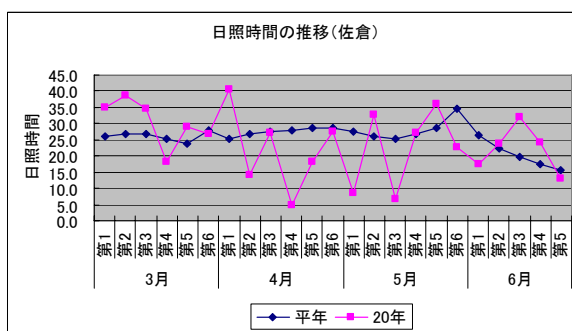
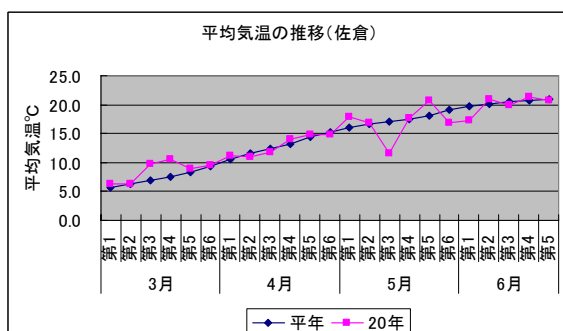
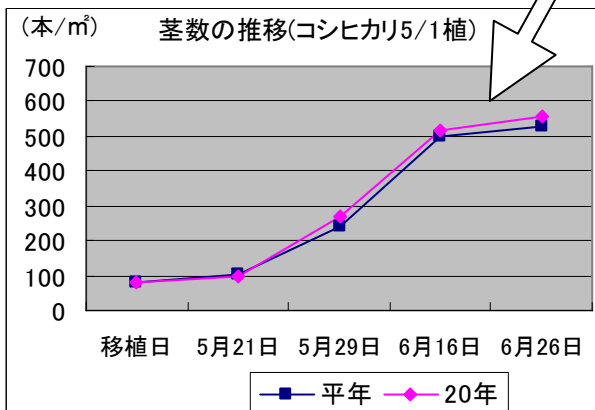
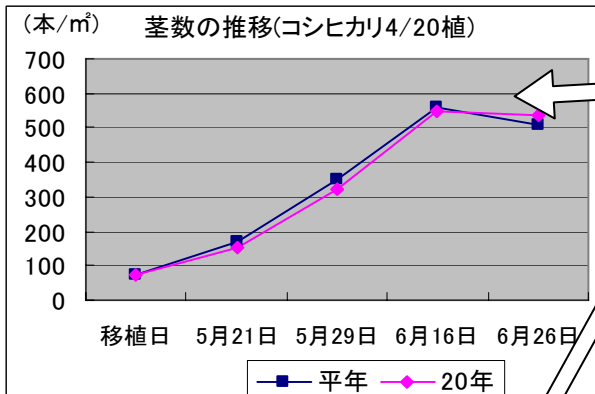
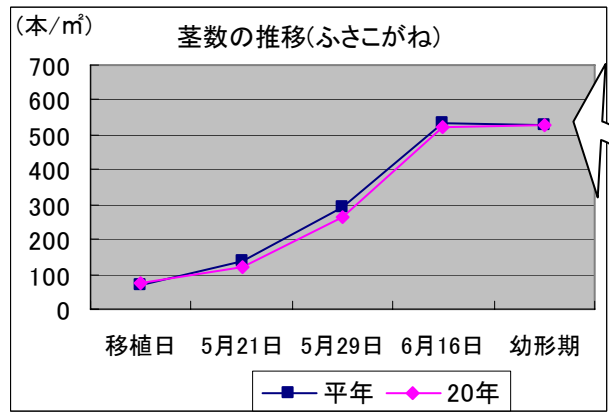
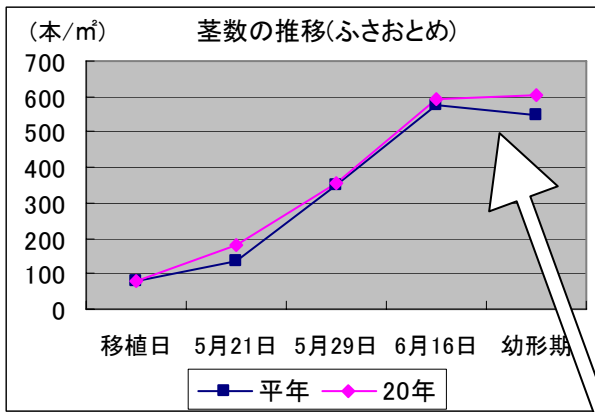


表1 品種別の生育状況（6月26日現在）

| 品種    | 植付時期   | 平年遅速 | 平年比 |     |    |
|-------|--------|------|-----|-----|----|
|       |        |      | 草丈  | 茎数  | 葉色 |
| ふさおとめ | 4月20日頃 | やや遅  | 並   | 多   | 並  |
| ふさこがね | 4月20日頃 | やや遅  | 並   | やや多 | 並  |
| コシヒカリ | 4月20日頃 | やや遅  | 並   | 多   | 濃  |
|       | 5月1日頃  | 並    | やや低 | やや多 | 並  |

※ 平年比は過去5か年（2003～2007年）平均値との比較です。

※ ただし「ふさこがね」は過去2か年との比較です。



いずれの品種も、茎数の低下が平年よりも遅くなっています。

葉色のさめも遅くなっています。

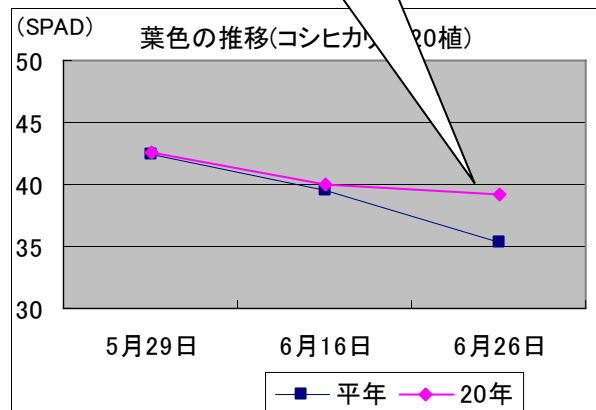


表2 「コシヒカリ」の幼穂形成期予測

| 品種    | 植付時期  | 幼穂形成期予測 (月日) |       |       |       |
|-------|-------|--------------|-------|-------|-------|
|       |       | 県北           | 九十九里  | 内湾    | 県南    |
| コシヒカリ | 4月20日 | 7月 3日        | 7月 1日 | 6月28日 | 6月28日 |
|       | 5月 1日 | 7月 7日        | 7月 5日 | 7月 4日 | 7月 4日 |

※ 「コシヒカリ」の予測はメッシュ予測による。

## [これからの管理のポイント]

### 低温になったら深水管理！ (表3を参照)

梅雨が明けるまでは、気温の変化が大きく、管理には十分注意が必要です。平均気温が20℃以下の場合、15～20cmの深水管理に努めましょう。

表3に示すとおり、「ふさおとめ」は7月1日から、「ふさこがね」は7月3日から冷害危険期となります。

表3 早生・中生品種別の冷害危険期と出穂期の予測 \*予測日から8日間を「冷害危険期」とする。

| 品種    | 植付時期  | 冷害危険期予測 (月日) |        |        |        | 出穂期予測<br>(月日) |
|-------|-------|--------------|--------|--------|--------|---------------|
|       |       | 県北           | 九十九里   | 内湾     | 県南     |               |
| ふさおとめ | 4月20日 | 7月 5日～       | 7月 4日～ | 7月 2日～ | 7月 1日～ | 7月18日～        |
| ふさこがね | 4月20日 | 7月 7日～       | 7月 6日～ | 7月 4日～ | 7月 3日～ | 7月20日～        |
| コシヒカリ | 4月20日 | 7月12日～       | 7月10日～ | 7月 9日～ | 7月 9日～ | 7月24日～        |
|       | 5月 1日 | 7月17日～       | 7月15日～ | 7月14日～ | 7月14日～ | 7月29日～        |

※ 「ふさおとめ」、「コシヒカリ」の予測はメッシュ予測による。

※ 「ふさこがね」は、幼穂形成期実測値からの推定による。

「幼穂形成期」とは1mm以上の幼穂が80%以上になった時

### ふさおとめ

#### 間断かんがいで根の活力を維持！

幼穂形成期から出穂、登熟期間は、間断かんがいで管理しましょう。

### ふさこがね

#### 穂肥は早すぎないように！ (表1、4を参照)

「ふさこがね」は6月30日頃から穂肥の施用時期(幼穂長1cm、出穂18日前)を迎えます。幼穂形成期の葉色がやや濃いので、穂肥は早すぎないようにしましょう。

早過ぎると籾数が多くなりすぎて、一籾当たりの栄養分が少なくなったり、成熟がバラついたりすることから、品質が低下しやすくなります。

表4 「ふさこがね(4月20日頃植え)」の幼穂形成期頃(6月25日調査)における生育状況

|     | 草丈<br>(cm)  | 茎数<br>(本/m <sup>2</sup> ) | 葉色<br>(SPAD値) | 茎数×葉色/m <sup>2</sup><br>(SPAD値) |
|-----|-------------|---------------------------|---------------|---------------------------------|
| 本年  | 56          | 525                       | 42.3          | 22208                           |
| 目標値 | 60～65<br>以下 | 450～<br>550               | 38～42         | 18000～<br>22000                 |

※数値は作柄安定対策調査ほの5圃場平均

#### 間断かんがいで根の活力を維持！

幼穂形成期から出穂、登熟期間は、間断かんがいで管理しましょう。

## コシヒカリ

### 適切に穂肥を！（表2を参照）

「コシヒカリ」の幼穂形成期は6月28日から、穂肥施用適期は7月5日頃からと予測されます。幼穂をよく観察し、適期に穂肥を施用しましょう。

## 品種共通

### ほ場を見回り、いもち病の適期防除を！（表5を参照）

「いもち病」は、平均気温20～25℃で雨が多く日照不足のときには発生しやすくなります。「葉いもち」は「穂いもち」の原因となるので、ほ場をよく観察し、発生が認められた場合は速やかに防除しましょう。

表5 いもち病の主な防除薬剤

| 対象              | 薬剤名            | 使用時期（使用回数）    | 10aあたり<br>散布量 |
|-----------------|----------------|---------------|---------------|
| 穂いもち<br>（予防）    | オリゼメート粒剤       | 出穂3～4週間前（2回）  | 3～4kg         |
|                 | フジワン粒剤         | 出穂30～10日前（3回） | 3～5kg         |
|                 | コラトップ粒剤5       | 出穂30～5日前（2回）  | 3～4kg         |
| 葉いもち<br>（予防・治療） | ブラシン粉剤DL       | 収穫21日前まで（2回）  | 3～4kg         |
|                 | ヒノザン粉剤DL       | 収穫21日前まで（3回）  | 3～4kg         |
|                 | カスラブサイド粉剤（含DL） | 収穫21日前まで（4回）  | 3～4kg         |

※予防：病害が発生する前に効果がある      治療：病害が発生したごく初期に効果がある

詳細な情報は[病害虫防除課のホームページ](#)を参照してください。

### 稲こうじ病の予防（表6を参照）

過去2か年は稲こうじ病が多発しました。穂ばらみ期から出穂期に降雨が多い条件で発生が多くなります。

前年度に多発したほ場では、農薬の使用基準に留意して必ず防除しましょう。

また、米の検査では稲こうじ病菌により玄米が損傷を受けたり、菌の塊が混入していると、精米した場合、着色するなど品質に大きな影響を与えるため、検査では規格外となることから注意しましょう。

表6 稲こうじ病の主な防除薬剤

| 薬 剤 名           | 使用時期        | 10アールあたり<br>散布量 |
|-----------------|-------------|-----------------|
| モンガリット粒剤        | 収穫45日前まで    | 3～4kg           |
| ブラシフロアブル 1000倍液 | 収穫21日前まで    | 120～150L        |
| ブラシン粉剤DL        | 収穫21日前まで    | 4kg             |
| ラブサイドベフラン粉剤DL   | 穂ばらみ期～穂ぞろい期 | 3～4kg           |
| Zボルドー粉剤DL       | 出穂10日前まで    | 3～4kg           |

注)モンガリット粒剤は出穂前3～2週間前に、必ず湛水した水田に処理し、その後7日間は止水するようにします。



ふさこがね 6月26日 千葉市緑区刈田子町